家庭用消毒液の生成と配布

相馬市は4月14日、市内の小・中学校の児童・生徒のいる家庭用消毒液の生成を防災備蓄倉庫で開始しました。

消毒液は、相馬地方広域水道企業団から次亜塩素酸ナトリウム水溶液の提供を受け、厚生労働省で紹介している濃度0.05パーセントに希釈したもの。

消毒液の生成は、市内でアルコール消毒液や除菌類などが手に入りにくいことから、市が主体となり生成し配布することで新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を目的とします。

当日は、相馬市立小学校PTA連絡協議会の協力を得て、市職員ら10人で生成作業を行い、備蓄倉庫にある備蓄水を活用し2リットルペットボトル入り消毒液を261本生成しました。

消毒液の生成作業は約2週間を見込んでおり、約2,800本の2リットルペットボトル入り消毒液を生成し、順次小・中学校を通じて、1家庭あたり1本配布する予定です。

使用方法は、手指の消毒液としては使用できないため、ゴム手袋を着用しながらドアノブやテーブルなどを消毒し、こまめに各箇所を消毒することで効果が得られ、また消毒液を配布することで市民の感染防止への意識向上を期待します。